



お月見のお話(中)



みなさんこんにちは。今日はお月見のお話です。

お月見の行事は中国で始まりました。そして千年くらい前に日本に伝わり、^{きゅうてい}宮廷でのお月見では月の詩や歌を作り、^{ががく}雅楽を^{かな}奏でながら、月をながめて楽しみました。

江戸時代になると、^{しょみん}庶民にもお月見が広まり、月に見立てたおだんごや、たわわに実った稲穂に見立てたすすき、そして、里いもやくだものなどをお供えし、秋の収穫を感謝するようになりました。私たちも自然の恵みに感謝する心を大切に受け継いでいきたいですね。

今年は、9月10日が「十五夜」です。

十五夜は、^{きゅうれき}旧暦では8月15日の夜のことです。昔は月の満ち欠けによって^{こよみ}暦を作っていました。旧暦の8月は、秋にあたり、一年の中でも、とくに月が美しいことから「^{ちゅうしゅう}中秋の名月」といわれています。

今日は、お月見にちなんだ給食です。きれいな月が見られるといいですね。